第６学年１組　図画工作科学習指導案

指導者

研究主題

つくりだすことに熱中する図画工作科学習
～対象との対話を重視しながら，自分らしく表現できる子どもの姿を求めて～

１．題材名　　「箱を開けば，あの時の私」Ａ表現（２）エ

２．指導観

○　本学級の児童は，ほぼ全員が「誰かのため」や「何かに使える」といった目的があることで，意欲的に取り組むことができる。５年生の「世界に一つの自然からの思い出オブジェをつくろう」では，自然教室の思い出として自分たちで拾ってきた自然物（流木・貝・石）とアルミ線針金を組み合わせたオブジェをつくった。自然物が材料になる発見や，色や形の美しさ，おもしろさに気付き，材料に対しての見方や感じ方が広がった活動になった。作品完成後に作品展を開き，４年生や保護者の方々とそれぞれ自然教室の思い出を共有する会を設定したことで，相手意識をもって創作活動ができた。

１学期に行ったアンケートでは，図画工作科の学習が好きという児童が７８％，図画工作科の学習で，時間を忘れて夢中になることがある児童が７８％と，５年生の時に比べ意欲的に取り組める児童が増えてきている。しかし，少ない材料や決められた技法を使って作品づくりをすることは出来るが，様々な材料からより作品づくりに適したものを選ぶまでには至っていない。そういった児童の実態を踏まえ，表現方法に応じて，材料や用具を総合的に活用する力をつけると共に，一部立体となっている箱を背景として，奥行きや前後関係を工夫した表し方ができると思い，本題材を設定した。

○　本題材では，開くことができる箱に物語をつくることを通して，空間構成のおもしろさを感じながら，箱の展開方法や選んだ材料のよさを生かして表現することができるようにする。必ず箱の一部分は立たせるようにすることで，中学年と高学年の違いである奥行きや前後関係を意識させたい。６枚の段ボール板を使って，一枚ずつちがう世界を表したり，つなげて一つの世界をつくったりと多様な作品が期待できる。また，６年間の集大成として，それまでに習った経験や技能を総合的に生かしたり表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして，表し方を工夫していくようにする。箱をつくることを通して，６年間の思い出を振り返りながら自分の成長を再確認するとともに，親や友達，お世話になった学校の先生に感謝の気持ちをもち，卒業までの残りの時間も大切にしようとする気持ちを育てることができる価値ある題材であると考える。

○　指導に当たっては，一辺２０ｃｍ，厚さ５ｍｍの段ボール板６枚を箱の材料として，立方体になるようにする。奥行きや前後関係をより考えられる手立てとして，箱の一部分を立たせるようにし，板と板の開閉には，金属の蝶番ではなく，テーピング用の布テープを使うようにする。布テープは手軽に貼れることや，上から色を塗ることができるという点が優れている。６枚の板には，自分の思い出の感じに合った色をローラーやスタンプを使って塗るようにする。色の感じは，１０月の題材，「はさみと紙のハーモニー」の経験を生かして，その時の言葉のパレットを参考にして決めるようにしたい。

３．研究の着眼点

【視点１】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

①　題材設定の工夫について

題材を通して児童が意欲をもち続けていくために，箱の中に思い出を詰め込む設定にする。箱を開けるわくわく感と，箱という限られた空間に思い出を詰め込むということは，とても夢が広がることである。木の板ではなく，段ボール板を使うことで軽くて児童も扱いやすい。そのことで作品づくりに意欲をもち続けるようにしたい。

一部立体となっている箱を背景とした仕上がりにすることで，児童の作品がそれぞれ違ってくる。鑑賞が終わると全員の作品が一つの箱に組み立てられるということで，タイムカプセルのような存在になるようにしたい。

②　題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」段階では，箱につめる思い出を選ぶことができるように，イメージマップに６年間の思い出を書き込んでいくようにする。イメージマップには，カテゴリー別に思い出を書き込み，その中から箱に詰めたいものを選ぶことができるようにする。選んだものには，より詳しくその時の情景や物，考えなどを自由に書き込むようにすることで，作品づくりへのヒントにしたい。

「みつける・あらわす」段階では，工作用紙でつくった展開図を自由に組み立てていく活動を通して，思い出のイメージに合った形を選ぶことができるようにする。選んだ展開図にアイデアスケッチをすることで，立体的な構想を練ることができるようにする。作品は，箱の一部の面を立てるというルールをつくることで，立てた面を生かして壁に見立てたり，底面をつなげて運動場にしたりと各面の組み合わせ方を考えながら，自分が表したい物語のイメージをつくっていけるようにしたい。工作用紙で出来上がりのイメージができたら，段ボール板６枚を箱の展開図として並べてローラーやスタンプを使い，今までに習った技法を使いながら仕上げる。６枚の段ボール板を展開図通りに布テープでつなげ，材料は友達と自由に共有できるようにする。箱に入れる自分には，芯にアルミ針金を使うことで自由に動きを表し，立たせることができるようにしたい。

「あじわう」段階では，友達との交流の中で選んだ材料や表し方などの工夫について見付けることができるようにする。

【視点２】言語活動の場や方法を工夫する視点から

①　感じたことを共有する言語活動について

「であう」段階では，イメージマップを使い，自分なりの思い出を広げるようにする。今までの自分の経験の中で心に残っていることや感動したことを書き，友達と共有することで表したい世界を決めていく。

「みつける・あらわす」段階では，言葉のパレットや思い出の写真を見て，自分の表したい世界をつくっていく。つくっていく過程で「そこ，いいね」「ここどうかな？」，「ちょっとつけるの手伝って」などの対話が自然にできるようなグループをつくるようにする。

「あじわう」段階では，学年全員で作品を持ち寄り，思い出を共有することができるようにする。自由に見て回ったり，作品を思い出のカテゴリー別に鑑賞したりすることで友達の作品のよさや自分との作品の違いを見付けられるようにしたい。

②　対象との対話の積み重ねと学習評価の工夫について

毎時間の活動内容と次時の活動の予定を書き込むふりかえりシートを使い，児童の思いを把握する。また，困ったことなどを書き込めるＳＯＳの欄を設け，児童の困っていることを前時に知ることで，的確な支援ができるようにする。

鑑賞では，鑑賞カードを使い，自分の作品への思いや工夫した所，友達のよさを色，形，材料の視点から書くようにする。

４．特別な教育的支援を要する児童に対する指導上の工夫・手だて

困難さ	手だて	対象児童	番号
表したいものが思いつかない	学年全体で様々な思い出を発表する（イメージマップにまとめる）。	A児 B児	①
・見通しがもてないと不安。 ・立体的な想像が難しい。 ・出来上がった想像ができない。	紙で箱をつくることで完成のイメージがもて，見通しがたてることができるようにする。	C児	②
表したいものはあるが，それを表すことができない。	・ 上手く立たせるための参考作品 ・ 基本の人のつくり　針金を自由にまげて遊ぶ。（言葉のパレット） ・自分の表したい動きを見付ける。	D児	③
自分の表したいものに適した材料や用具の生かし方が思い付かない場合	・材料コーナーをつくり，材料を共有できるようにする ・材料コーナーに材料の特徴や用具の使い方まとめたものを掲示しておく。	C児 E児 D児	④

５．目標

造形への 関心・意欲・態度	○　箱の機能と伝えたいメッセージを効果的に組み合わせて，楽しく表現しようとする。
発想や構想の能力	○　小学校６年間の思い出から自分の表したい世界を見付けることができる。 ○　自分が思い描いたイメージが表せるように，形や色，表し方や箱の展開方法を考えることができる。
創造的な技能	○　材料や用具の特徴を生かして効果的に表すことができる。 ○　自分の表したいことに合わせて材料を選び，表し方を工夫することができる。
鑑賞の能力	○　友達と自分の発想や表し方の違いに気づき，互いのよさを認め合う。

６．指導計画と評価計画（総時数１０時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎　主体的・対話的で深い学び ★　特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援	評価規準および評価方法
であ	１「小学校での思い出」というテーマで友達と	★　手だて① ○　思い出をイメージマップにまとめ，	【発】小学校６年間の思い出から自分の表したい世界

う	話し合う　①	自分の表したいものを見付けられるようにする。 ◎　友達との交流の中で表したい思い出を見つけることができるようにする。	を見付けることができている。 （イメージマップ）
みつける・あらわす	2　箱づくり　② ⑴方眼紙 ①　展開図を選ぶ。 ②　一部を立てた完成の形を決め，アイデアスケッチをする。 ⑵ダンボール板　① ①　６枚の板を展開図に並べて布テープを貼る。 ②　６枚の板に自分のイメージに合った色をつける。 3　針金人形つくり　① 4　思い出の場面づくり　③ ＜本時２/３＞ 5　仕上げ　①	★　手立て② ○　数種類の立方体の展開図を自由に折らせることで自分のイメージに合った形を選ぶことが出来るようにする。 ○　中心にしたいところを立たせて背景にするようにする。 ○　必ず一部分を立たせることで空間をもたせ，奥行きを意識させるようにする。 ○　展開するところは内側，立たせるところは内側，外側に布テープを貼るようにする ○　言葉のパレットで色や形のイメージを確認することで，自分の思いに合った背景をつくることができるようにする。 ★　手だて③ ○　教師が前で手本を見せながら一緒につくることで，基本の人形のつくり方が全員で分かるようにする。 ○　出来た人形を色々動かし動作化することで，言葉のパレットをつくる。 ○　箱が閉まらない作品例を見せることで，箱にした時に上手く収まるようにつくることができるようにする。 ★　手だて④ ◎　材料を共有できるコーナーをつくることで，材料の色や形，特徴などについて友達と自由に話合うことができるようにする。 ○　思い出に合った自分の形を決め，紙	【関・意・態】箱の機能と伝えたいメッセージを効果的に組み合わせて楽しく表現しようとしている。 （作品・アイデアスケッチ） 【発】自分が思い描いたイメージが表せるように，形や色，箱の展開方法を考えている。 （作品） 【創】材料や用具の特徴を生かして効果的に表している。（針金人形） **【創】自分が表したいことに合わせて材料を選び，表し方を工夫することができている。** **（活動する姿，箱の中身）** 【発】自分が思い描いたイメージが表せるように，形や色，表し方を考えること

		粘土で肉付けをして仕上げるようにする。	ができている。 （作品）
あじわう	6　自分や友達の作品を鑑賞し，感想を伝え合う。　①	◎　学年全体で，思い出を共有することで，友達の作品のよさや自分との作品の違いを見付けることができるようにする。	【鑑】友達と自分の発想や表し方の違いに気付き，互いのよさを認め合っている。 （活動する姿，鑑賞カード）

７．本時の学習　平成３０年１１月６日（火）　　第５校時　　図工室

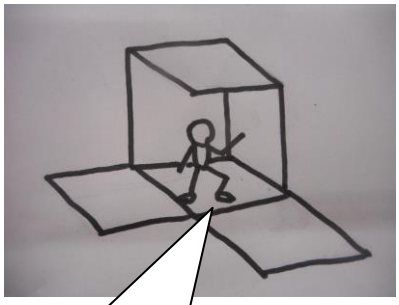
⑴　主眼　　思い出の場面に出てくる人やものをつくる活動を通して，材料の特徴を生かしながら，自分の思いを表現することができるようにする。

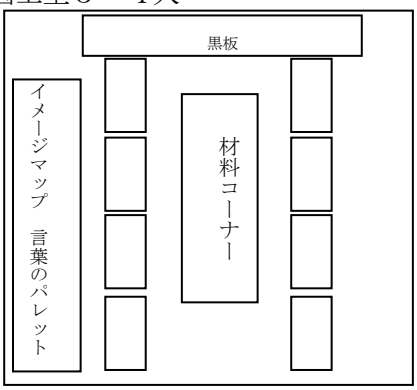
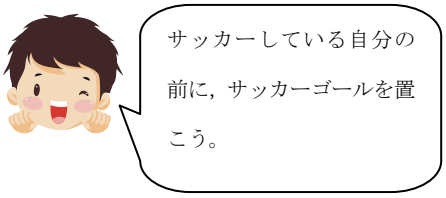
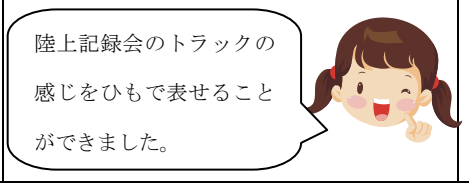
⑵　準備

①　教師　　ホットボンド，木工用ボンド，思い出の写真，イメージマップ，言葉のパレット（色と形），材料（アルミ針金，アルミホイル，布，カラー方眼，紙粘土，モール，小枝，マスキングテープ，綿，割り箸，キャップ，紙コップ，ひも，紙筒など）

②　児童　　ラジオペンチ，カッター，カッターマット，はさみ，木工用ボンド，粘土板，箱，アイデアスケッチ

⑶　展開

	主な学習活動・内容	○　指導・支援上の留意点【観点】評価規準（評価方法） ★　特別な教育的支援を要する児童への特に困難とされる場面での支援のポイント　◎　主体的・対話的で深い学び
であう	1．前時学習を想起し，本時のめあてを確かめる。	○　アイデアスケッチを見て，本時につくるものを確認する。 ○　教師の提示した二つのパーツを見て，材料の違いで仕上がりがちがうことを実感させるようにする。
	めあて　自分の思いに合った材料を選んで，場面をつくろう。	
	2　用具，材料を使うときのルールを確認する。	○　安全に気を付けて活動できるように正しい用具の使い方を確認する。
みつける・あらわす	3　思い出の場面をつくる。  本時は主に箱の立てた部分に一番表したい思い出の場面をつくっていく。	○　箱が閉まらない作品例を見せることで，箱にした時に上手く収まるようにつくることができるようにする。 ○　材料を共有できるコーナーをつくることで，材料の色や形，特徴などについて友達と自由に話し合うことができるようにする。 ○　材料の特徴をまとめた掲示物を参考にすることで，より思いに合った材料選びができるようにする。 城島高原のジェットコースターの感じをだすには，何の材料を使おうかな。

	《設定した場の図》 図工室３～４人  ○　教室中央に材料コーナーを設置して，適した材料を選べるようにする。  	◎　グループで学習することで，互いの作品に触れて刺激をうけ，新しい工夫をする意欲につながるようにする。 ★　手だて①④ ◆　A児，B児については，途中で活動が止まってしまうことが多いため，選んだ参考になる写真を準備しておく。 ◆　D児，E児については，材料の特徴をまとめておいたものを手がかりにして，材料の特徴に着目させるようにする。 ◆　A児については，作業が停滞してしまうことがあるためグループ以外の友達と交流し，イメージを広げることができるようにする。 ◆　C児については，細かい作業が苦手。班の友達と協力できるような声かけをする。 【創】自分が表したいことに合わせて材料を選び，表し方を工夫している。　（活動する姿，作品）
あじわう	３．本時の学習を振り返り，次時の学習について話し合う。  	◎　今日の活動を振り返って，作品の工夫したところを紹介し合うとともに，友達のよいところを言葉で伝え合う。

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」
　思い出の場面に出てくる人やものを表すために，適した材料を選び，つくり続ける子ども。